



# 九州の元気のために できること

## 復興を応援するJALの取り組み

甚大な被害をもたらした熊本地震。熊本、そして九州全域の復興と地域の活性化に貢献するため、JALはさまざまな活動を行っています。今回はその取り組みの一部をご紹介します。

### 震災直後 エアラインに求められる役割

2016年4月14日、16日。熊本を中心に立て続けに大きな地震が発生しました。突然の出来事に不安を抱えている被災者の皆さまのために、何かできることはないか。そう考えたJALはすぐに初動対応に動き出しました。4月17日の夜には、熊本市からの要請に基づいてイオン株式会社から手配した毛布3000枚を、かねてより両社で締結していた緊急支援物資輸送の覚書に基づき、臨時便で伊丹空

港から熊本空港に輸送。さらに4月18日に空港の機能が一部復旧すると同時に定期便の運航を開始し、4月20日までに定期便49便で約50トンの緊急避難用大型テント、薬、毛布、パンやおにぎりなど、すぐにでも必要となる物資を被災地にお運びしました。また、大勢が集まる避難所でのストレスを少しでも軽減できるように、通常は機内でお配りしている耳栓やアイマスク、子ども用のおもちゃをお届けしました。

さらに、医師や看護師、NGOのボランティアコーディネーターのスタッフの方々へ無償航空券を提供し、被災地で救援活動にあたる人々の現地入りを支援させていただきました。

### 九州へ運ぶ

初動対応に取り組む一方で、九州に向かう旅行のキャンセルが相次いでいることがわかってきました。実際に大きな被害を受けた震源地の熊本と大分だけではなく、震災前と何ら変わらない他の県も含めて、九州全体の旅行需要が激減してしまいました。早急になんらかの手を打たなければなりません。その一つが、九州観光推進機構が推進する「九州ふっこう割」事業との連携でした。

「九州ふっこう割」事業とは、国の交付金を活用した九州観光促進のための施策で、九州へのツアーが大幅な割引で購入できるものです。JALでは、航空券と宿泊を自由に組み合わせることのできるインターネット経由のツアー「JALダイナミックパッケージ」を、最大3万円の割引価格で購入していただけるようにしました。

JALがこの事業への参加を決めたのは、震災発生からわずか1カ月強後の5月下旬。急ピッチで仕組みをつくりあげ、「JALで行こう九州ふっこう割」の特設サイトを構築しました。Web販売部の割田大樹は「今回のプロジェクトを担当していない同僚も積極的に協力し、どうすればより多くのお客さまにわかりやすく情報をお伝えできるかを徹底的に議論しました」と振り返ります。

販売開始となった7月1日。「それまでの予約の落ち込み方からみて、完



Web販売部 割田 大樹



ジャルパック 国内企画商品第3事業部 滝口 圭太

売まで1カ月はかかると予想していましたが、1週間もかかりませんでした。JALのホームページの過去最多のアクセス数を記録するほどで、九州への旅行の関心が高いことがわかり、胸が熱くなりました」と割田は言います。

「九州ふっこう割」以外でも取り組みが並行して進んでいました。多くの観光客の足が遠ざかっていたゴールデンウィーク中のことです。JALダイナミックパッケージで「がんばろう九州」プランというツアーをつくり、Webページ上に特集ページを立ち上げることにしました。5月2日には約20の宿泊施設を対象にプランを作成し、さらに5月末には宿泊施設の数をスタート時の8倍以上の約170施設に拡大。各施設で3〜4プランをつくり、特集ページに集約しました。

「九州の方々のことを考えると、少しでも早くリリースしなければと思い、休む間も惜しんで作業にあたりました」(ジャルパック 滝口圭太)

滝口は続けます。「お客さまが戻ってきていないエリアや宿泊施設がかなりの数にのぼっていました。これからもツアー企画にとどまらず、地域の情報をお客さまにしっかりと伝え、九州のさまざまなエリアに呼び込むお手伝いをしていきたいと考えています」

取り組みはJALだけでなく、日ごろからJALと提携している旅行会社にも広がっていました。ジャルセールスで旅行会社への販売を担当する蕎麦切京子は、「被災状況を考慮して、熊本と大分の受け入れ態勢が整ってから研修旅行で現地を訪れたいと九州観光推進機構のご担当者にお伝えしたところ、一刻も早く現状を見てほしいとのことでした。早速、旅行会社の皆さまと一緒に現地を訪れてみると、地震の影響を受けていない地域でも観光のお客さまが激減していることを目の当たりにしました。現地を視察して『私たちが今できることは、地震の影響を受けていない地域へ訪れていただくツアーを旅行会社のみなさまと一緒につくることだ』と決意を固めました」と言葉に力を込めます。



ジャルセールス  
本店国内旅客販売推進部  
蕎麦切 京子

このような思いを背景にでき上がったのが「JAL九州応援キャンペーン」です。旅行会社が販売するツアーやJALの「がんばろう九州」プランのうち、「JAL九州応援キャンペーン」ロゴが付いたツアーをご利用いただいた方お一人につき500円をJALグループから中央共同募金会を通じて、熊本県、大分県の被災者の方々に義援金として寄付するというものです。多くの旅行会社にご賛同いただき、20を超えるツアーを店頭やWEBで発売することができました。そして、それを見た多くのお客さまからもご賛同をいただき、8月時点で2万名様を超えるご予約をいただいています。JALは、旅行会社やお客さまとともに熊本、大分の復興支援、九州全体への送客支援に励みます。

蕎麦切は言います。「私は出身が福岡で、熊本支店に7年半にわたって勤務しており、この4月から現在の部署で九州エリアを担当しています。九州に縁が深い者として、九州は大丈夫だということを経一杯、発信していきたい。九州各県のJALの支店や地域の方々とともに知恵を絞って、より多くの方に九州に足を運んでいただきたいと考えています」

**熊本から届ける**

JALが展開している地域活性化

プレミアムラウンジで、阿蘇復興支援セットの一つである「ASOMILK」の提供を開始することができました。「ASOMILK」は、自ら何種類かの牧草を育て、牛の生育に合わせて与える牧草を選ぶなど、こだわりぬいた阿部牧場の看板商品で、ベルギーに本拠を置く国際味覚審査機構の2013年の優秀味覚賞で最高峰の三ツ星を受賞するほどの高い評価を受けています。ラウンジでは、1カ月間の合計で約600リットルを提供しました。

この地震で牧場の水道も壊れてしまったため、何キロメートルも離れた井戸にホースをつないでようやく乳牛に水を与えることができました。乳牛は毎日搾乳しなければなりません、流通させることができず、捨てざるをえないというつらい日々もありました。熊本から届けられる製品には、さまざまな思いが込められています。

7月には第二弾として「ゆず萌え」を同じく羽田空港のラウンジで提供しました。2008年に全国菓子大博覧会でも最高賞である名誉総裁賞を受賞した菓匠・久幸堂の商品で、地元ではとても人気のある和菓子です。8月の第三弾では菓心・なかむらが製造・販売する阿蘇を代表するお菓子「中岳シヨ

コレからも被災地に寄り添っていく

コラ」を紹介しました。羽田空港に加え、阿蘇くまもと空港でも提供し、実際に召し上がったお客さまから購入方法の問い合わせが相つぎました。

ご紹介した商品はいずれも人気があり、ラウンジで提供してからわずか1時間ほどでなくなってしまう。商品自体が魅力的であるとともに、熊本の食べ物を味わってみたいというお客さまの関心の高さを感じることができ。また、JALが直接購入することで、少しでも地域のお役に立ちたいという思いもあります。

JALは被災地の方の心に寄り添った存在でありたいと考えています。その一環となるのが、「くまもと音楽復興支援100人委員会」の活動の支援です。これは、全国から集まった100名を超えるアーティストが立ち上げたもので、JALはその取り組みに共感し、アーティストや楽器

化のプロジェクト「新・JAPAN PROJECT」。ここでも熊本の復興支援を行っています。新・JAPAN PROJECTとは、各地域の観光推進、農水産物の6次産業化をお手伝いすることによって、人・モノの流れをつくって地域の交流人口の拡大に貢献しようという取り組みです。

今回の地震の影響で阿蘇に観光客が来なくなったことで、食材や現地の名産品が売れなくなってしまいました。このままだと地域の衰退につながってしまいます。そのようななか、阿蘇の阿部牧場の阿部寛樹社長が、さまざま

を無償で運びすることでサポートしています。この委員会は、「音楽・芸術の力で熊本を元気に」をスローガンにしており、被災地でのコンサートや子どもたちへの楽器などの提供を通じて、被災された方々や大きなストレスを抱えながら生活している子どもたちの心を癒すことを目的としています。

これまでご紹介した取り組みに共通するのは、熊本と九州に元気を取り戻してほしいということです。さまざまなエリアをネットワークで結ぶエアラインにとって、地域が元気であることがとても重要であり、そのお手伝いをすることが、JALにとっても非常に大切だと思っています。

ジャルセールスで新・JAPAN PROJECTを担当する志田考司は「東日本大震災の影響が残る岩手に2016年3月まで勤務しており、この4月から今の部署で九州の担当をしています。東北と熊本の皆さまに共



ジャルセールス  
本店エリア販売推進室  
志田 考司

まな阿蘇の特産品を詰め合わせにした「阿蘇復興支援セット」というアイデアを提案されました。このセットはインターネットでの通販のほか、道の駅阿蘇で購入でき、売上の一部は倒壊した地元のシンボルである「阿蘇神社」へ募金されます。この販売の協力をしてほしいというご要望が、日ごろから地域の方と密な関係を築いている熊本支店長のもとに届いたのです。最初にお話を伺ったのが5月12日。6月1日には、新・JAPAN PROJECTによる熊本の復興支援の第一弾として、羽田空港の国内線ダイヤモンド・

通するのは、被災地域が復興し、営みや笑顔が戻るまでにはかなりの時間が必要ですが、まだ道半ばのところでも震災の記憶が風化し、忘れ去られた存在になってしまうのではないかと、思いを抱えていることです。だからこそ、支援を継続していくことが重要なのです」と言葉に力を込めます。

息の長い支援を続けていきたい。JALは今後も、地域の復興と活性化に向けて、取り組みを継続していきます。